

浄土宗保育協会機関誌

平成30年  
Vol.55

# 浄土宗保育

ののさまありがとう



ごあいさつ  
浄土宗宗務総長  
豊岡謙尔

浄土宗保育の  
これから

スペシャル対談

宗教と子育てをつなぐもの

浄土宗保育協会理事長・神田寺幼稚園 理事長

友松浩志 先生

玉川大学教授 乳幼児教育学

大豆生田啓友 先生

第43回

浄土宗保育協会全国研修報告

# 目次

ごあいさつ	3
<b>浄土宗保育のこれから</b>	
浄土宗宗務総長 豊岡鏖尔	
スペシャル対談 宗教と保育をつなぐもの	4
<b>要領・指針の改訂を経て、今、保育に求められることは？</b>	
浄土宗保育協会理事長・ <b>友松浩志</b> 先生 神田寺幼稚園 理事長	玉川大学教授 乳幼児教育学 <b>大豆生田啓友</b> 先生
全国研修会特集	8
<b>第43回 浄土宗保育協会全国研修会</b> ～併修 北海道地区研修会～	
<b>参加者の感想</b>	北海道・しろいし幼稚園 野崎知世 北海道・しろいし幼稚園 松岡ありさ 北海道・しろいし幼稚園 岩田美鈴
<b>平成29年度 表彰対象者</b>	10
園創立記念対象者／国家表彰対象者／永年勤続表彰対象者	
<b>法然さまお誕生・花まつり協賛広告</b>	11
<b>第24回 帰敬式</b>	12
<b>参加者の感想</b>	京都府・月かげみどり保育園 二上真奈 京都府・西念寺保育園 保田正子 岐阜県・慈教保育園 棚瀬美千代
<b>平成29年度事業報告</b>	14
<b>地区研修</b>	
<b>参加者の感想</b>	東京都・真理学園幼稚園 保科汐里 茨城県・取手保育園 甲野貴子 大分県・こども園るんびにい 江藤恵里 愛媛県・若葉保育園 長井史絵
<b>職員交流・公開保育～幼保を超えて他園に学ぶ～</b>	16
九州職員交流	福岡県・水巻みなみ保育園 泉田しのぶ
関東地区公開保育	埼玉県・淑徳与野幼稚園 平山友里絵
<b>事務局だより</b>	18

## ◆ごあいさつ◆

# 浄土宗保育のこれから

浄土宗宗務総長 豊岡鏖尔



はじめに、前浄土宗保育協会理事長の白簾文雄先生が、永年の幼児教育に関するご功績により国家表彰であります「瑞宝双光章」を受章されましたこと、心からお喜び申し上げますとともに、これからのより一層のご活躍をお願いするものであります。

後を継がれた友松浩志理事長もその経歴から何ら遜色ない方であり、これからの浄土宗保育にお力添え賜うことを喜んでおります。

日本社会がこれから迎えます少子化の嵐のなか、浄土宗寺院の存続も大変困難な時代となっております。生き残りをかけた経営を考えていただきたいものです。

毎度申しておりますとおり、浄土宗寺院の経営する保育園・幼稚園は、その経営者に宗祖法然上人の心が生きていなければなりません。幼いころから法然上人の非暴力、ともいきの心がその中心に置かれる、そんな保育活動をしてい

ただくことこそ、大きな意味があると思います。

通って来る園児が山門をくぐり、阿弥陀佛・法然上人の前で教育されるといふ、素晴らしい環境が浄土宗寺院の経営する園にはあるのです。

園長以下、保育に関わる皆様は、佛教、つまり浄土宗の心・法然上人の心をお持ちのわけで、他の保育園・幼稚園に長じるころは保護者の皆様には既にご理解をいただいていることは存じますが、更に一歩進めて、多くの認知をはかるべきではないでしょうか。

現在、浄土宗においては、僧侶の意識改革・資質向上を目指して研修を始めております。檀信徒に信頼される僧侶でなければならぬと考えております。特に大切な幼児教育の場に立つておられる僧侶・寺族の方々にとって、通って来る園児達、そして保護者の皆様の信頼を得るために何を為すべきかもう一度考えていただき、佛教保育でなければならぬのだという確信をお持ちいただきたい。人間にとって幼児時代の記憶と

いうのは、忘れられないものであると思います。阿弥陀様・法然様が見守ってくださっているという経験は大切なものであります。

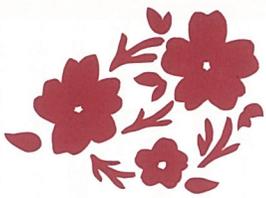
人智でははかり知れないこと、そういつたことを折に触れ子供達に伝えていただきたい。そのための環境作りにも、指導者の人間作りの皆様と共にある保育園・幼稚園を目指していただきたいと思っております。

申しあげるほど容易いことではないと存じますが、やっていたらかねばなりません。

最近では、マンション暮らしが多いことから、自宅に仏壇のない家庭が多いと聞いております。お名号でも絵図でもいい、自宅の柱に貼っていただくだけでも大きな効果をあげられるのではないのでしょうか。

浄土宗二十一世紀劈頭宣言「家庭にみ仏の光を」を実践してまいりますと思っております。

合掌



〈スペシャル対談〉 宗教と保育をつなぐもの

## 要領・指針の改訂を経て、 今、保育に求められることは？

浄土宗保育協会理事長  
神田寺幼稚園理事長  
友松浩志先生

玉川大学教授 乳幼児教育学  
大豆生田啓友先生

「心」が豊かではない今の時代に必要なのは、  
子どもの思いをくみ取り、親にも寄り添うこと。  
寄り沿ってくれる人と出会えれば、  
悩んでいる親たちも、子どもも救われる。

平成三十年度から幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保  
連携型認定こども園教育・保育要領が改訂され、新たな時  
代に向けての保育がスタートを切りました。それらの要  
領・指針には21世紀後半を生きる子どもたちにとって大  
切な要素がたくさん散りばめられています。浄土宗の教  
えの下、新しい要領・指針をどのように踏まえた保育を考  
えていくべきなのか。玉川大学の大豆生田啓友  
教授と浄土宗保育協会理事長の友松浩志先生のお2人が、  
新たな時代の保育について対談しました。

（取材・構成／猪熊弘子）

員の仕事というのは、相手にあわせ  
る仕事なんだと知りました。

**大豆生田** 実は私も母子愛育会の  
愛育養護学校で障害のある子ども  
たちと関わったのが最初の保育と  
の関わりでした。養護学校に行っ  
たら子どもと一緒に地面に転がっ  
ているおじさんがいて、「誰だろ  
う？」思ったら、幼児教育学者でお  
茶の水女子大学名誉教授にもなら  
れた津守真（つもり まこと）先生  
でした（笑）。津守先生に「この子の  
隣についてくれ」と言われて、ただ  
ずっとその子の隣にいるうちに、そ  
の子は光や水を見せると「あっ」と  
声を出すことに気付きました。気  
付いて驚いた私が「あっ」と声を出  
すと、その子は私の顔をじっと見  
る。その瞬間、「何もわからない子  
だと思っていたのに、実はほかの子  
と変わらず、ちゃんとわかっている  
んだということを知りました。

**友松** 先生はクリスチャンだとい  
うことがついています。

**大豆生田** はい。あまり熱心では  
ないのですが（苦笑）。まして、仏教  
保育についてはほとんど知らない  
のです。『浄土宗保育指針』という

ものがあるとうかがいましたが、ど  
んなことが書かれているのでしょ  
う？

**友松** 『浄土宗保育指針』は昭和43  
年に作られ、最新のものは平成25年  
に改訂しました。お釈迦様のご生  
涯と教え、法然上人の生涯と教えに  
はじまり、浄土宗保育の理念や行  
事、日々の保育の中での課題につ  
いて浄土宗の教えに基づいて解説し  
ています。指針に載っている「いま  
ささぐ」という歌は私が子どもの頃  
にこの神田寺で作られたものです。  
第二次大戦後、教化運動のために作  
った合唱団の指導をしていらした  
林良夫先生がこの曲を作曲されま  
した。歌詞には「お釈迦様がお説き

教員は「教える」だけでなく、  
「教えられる」ことが多い仕事

**友松** 大豆生田先生、今日はよろし  
くお願いします。私は、東京・神田  
にある神田寺幼稚園の理事長をし  
ております。私の父が昭和26年に  
開園し、私が後を継いでいます。長  
い間やってきて気付いたのは、教員  
は「教える」よりも、むしろ子ども  
や保護者、あるいは先生方から教え  
られることが多い仕事だというこ  
と。浄土宗の教えの中で、他人から  
教えられるということは大事なこ  
とですので、やってきてよかったです  
思っています。

**大豆生田** 私も保育者養成をする  
中で、教えるだけでなく教わること  
になった教えを燈火（ともしび）と  
して、自分自身のお行いをより高め  
ていかなければならない」という仏  
教の基本的教えが込められていま  
す。

**大豆生田** なるほど。「自らの行い」  
ということでは、キリスト教の信者  
は自分の「証（あかし）」をするとい  
うことがあります。神様と自分が  
どのように向き合っているか、どう  
葛藤するか、私はなぜいまここに  
立って神と対峙しているのか、とい  
う問いです。子どもが神様にお祈り  
をするというのは、自分との対話  
です。浄土宗とキリスト教における  
「自分」のあり方は、共通点も異  
なる点もありますね。

さまざまな路を  
たどりながら、  
子どもたちが出会う世界を  
問い直すのが「10の姿」

**友松** 幼稚園教育要領、保育所保  
育指針、幼保連携型認定こども園  
教育・保育要領の三法令が改訂され、  
今年4月1日から施行されました。  
大豆生田先生はこの要領・指針の改  
訂は、どのように実践につなげれば

が多いです。周囲の方たちにもと  
ても恵まれていて、感謝する気持ち  
が常にあります。友松先生は後か  
ら教員の資格を取られたとうかが  
っていますが、元々のご専門はどう  
いった分野だったのでしょうか？

**友松** 大学の専攻は西洋哲学でし  
たが、心理学にも興味があり、アメ  
リカの精神心理学者ベッテルハイ  
ムが書いた自閉症に関する本を読  
んだりしていました。障害のある  
子どもたちは、一体どんな風に考  
えているんだろう？という興味があ  
ったんです。そして園にたまたま  
自閉症のお子さんがいて、彼らに関  
わるようになりました。ただ教え  
るのではなく、彼らにあわせなけれ  
ばならないことが山ほどあって、教

良いとお考えでしょうか？

**大豆生田** 私は今回の三法令の改  
定を大きな教育改革の一端とら  
えています。21世紀後半を生きて  
いく子どもたちには、かつてのよう  
に教員が子どもたちに教え込むス  
タイルではなく、学校教育全体が  
「アクティブラーニング」になるこ  
とが必要です。そのスタートが乳  
幼児期の保育・教育にある、とい  
う意味での改訂です。ただ、結局はそ  
れを現場がどのように運用してい  
くのかにかかっているのも確かで、  
まだまだ議論も必要です。

**友松** 特に「幼児期の終わりまでに  
育ってほしい姿（10の姿）」が達成目  
標のようなものとして位置づけら  
れてしまう心配もあると感じてい  
ます。達成目標というのは、本来  
それぞれの子どもにあわせたもの  
であるはず。そういう意味では「10  
の姿」は、「せめてこういうところに  
向かっていってほしい」という思い  
の現れなのではないかと考えてい  
ます。

**大豆生田** そうですね。「10の姿」は  
達成目標ではなく、学びのプロセス  
について示したものです。乳幼児





期には子ども主体の遊びが大切で、その遊びこそが学びなのだということ、小学校以上の学校や社会に對してわかりやすく言葉で伝え、可視化するためのツールが「10の姿」なのだと思っています。

**友松** たとえば山の頂上に行こうとするとき、そこに向かう道筋はいろいろあって、こつちから上る人もいれば、あつちから上る人もいる。難しい崖を登る人もいれば、平坦な道を行く人もいる。みんなに頂上には向かってほしいけれども、その人にとって難しいなら行かなくてもいいし、行く日や行く道は違ってもいい。でもそれぞれが試行錯誤して、それぞれの頂上にたどり着こうよ、というくらいにとらえていきます。そんな理解でよろしいでしょうか？

**大豆生田** はい、まさにそういうことだと思えます。これからの幼稚園・保育園・こども園では、どの子

が頂上まで上れたか、上れなかったかという評価ではなく、それぞれの子にとっての頂上に向かおうとするプロセスの中で、子どもたち一人ひとりの協同性がどのように育っているかを語ることが大切なんですね。しかしそういう本質的なことは見えにくく、伝えにくいという課題があつたんですね。そこで「10の姿」を通して、遊びや子ども主体の活動の中で一人ひとりの子どもができることがこれだけあることを小学校や保護者に伝えることができると思えます。

**友松** これからの時代、大切なのは保護者や社会に説明責任を果たすことです。園では遊びが大事と言うけれど、そこで子どもは何を経験し、そのプロセスはどのように展開していくのか、それが見えにくいものですから。大豆生田先生も研究していらいっしやる倉橋惣三くらはし、そうぞうはじめ、先人たちの保育に対する思いは良くわかるのですが、逆に非常にわかりにくい世界も産んでしまった。ですから「可視化」というのは実に大切なことですね。

るまでになりました。大切なのは「今はこうして遊べるんだからいいじゃない？」と親が思えることだと思えます。

**大豆生田** 宗教保育の原点はまさにそこにあるのではないでしょう。親たちは子どもの事で悩んでいる、子どもの「今」をなかなか見ることができません。葛藤している親に寄り添う人がいれば親は救われます。経済的には豊かなのに心が豊かではない時代に、子どもの思いをくみ取って、「今、この子はこう思っているよ、こう見えているよ」と話してくれる人、そして親にも「大変だよ」と寄り添ってくれる

友松 子どもは「今」しか生きられません。でも親は先を見て心配ばかりしてしまふ。うちの幼稚園に、あるお母さんが障害をもつお子さんを連れてきたことがあります。3歳だけ歩けなくて、別の園で入園を断られたと絶望していました。でも、その子を3歳児の部屋に連れて行って「お母さん、一緒に座ってみようよ」と声をかけてその子の目の高さで見ると、お母さんも、子どもがちゃんと遊んでいることがわかつたんですね。その子は最後に補助具を使って立ち上がられ



**大豆生田** 倉橋も葛藤したんだろうと思います。「遊び」を強調すると、自由本位になってしまう。「学び」の観点を強調すると「させる」保育になってしまう。保育を「学び」ですが、それは小学校以上の子どもが「学習」とは違います。子どもたちが遊びという「学び」の中で、その子なりに広げている世界を問いますのが「10の姿」なんです。

**昔よりも幼保の役割は ずっと重要。もつと社会に 評価されていいんです**

**友松** 今、子どもを育てるのは大変な時代だと言われます。そうなる社会で子どもを育てる、ということになって、私などは「ちょっと待って？」という思いもあります。親が人間として成長するために、子どもが教えてくれることはたくさんあると思うのですが……。



先生のような人は大切な存在です。豊かな実践に裏付けされているからこそ、先生のその言葉が親には重く響いてくるのだと思います。

**友松** 子育てに神経質になってイライラしている親に「大丈夫、そこそこできればいいんだよ」ということを言っておあげられることが大切ですね。まさに浄土宗でいう愚者の自覚だと思えます。教えるのではなく「大丈夫」って言うてあげられること、今を大切に生きて行くことを伝えること、それが私たちの大事なつとめなのだと今日は改めて思いました。ありがとうございます。

**大豆生田** 私のもう一つの専門は「親」に関することなのですが、今の親たち、特に母親の閉塞感はとても強いと感じます。核家族が進み、かつてこれほどまでに母親が1人で子どもに向き合わなければならぬ時代はありませんでした。もちろん、第一義的な子育ての責任は親にあります。保育園や幼稚園に子どもを任せっぱなしにするという考え方はなく、園と親とが一緒に子どもを育てていくという形を作ることが必要です。共に支え合う場所として、幼稚園や保育園の役割は昔よりもずっと重要ですよ。一緒に子育てに向き合ってくれている人がいて初めて親は「子どもに教えてもらっている」と思うことができるようになるのではないのでしょうか。

**友松** 子育ては大事な仕事だという評価があつていいと思います。国にとつても大事な国造りの元であるはずなのに、社会がリスベクトしていません。

**大豆生田** そうですね。たとえばフランスなどはそういうことを国が率先して行つてきました。日本でも若い世代では男性も子育てに

**プロフィール**

**大豆生田 啓友 先生**  
(おまめうだ ひろとも)

昭和40年生まれ。玉川大学教育学部教授。保育所・幼稚園や子育て支援施設をフィールドとした、保育実践や保護者支援に関する質的研究や、倉橋惣三くらはし、そうぞうの保育論に関する研究などを行う。著書多数。最新刊は『あそびから学びが生まれる動的環境デザイン』（学研教育出版）。

**友松 浩志 先生**  
(ともまつひろし)

昭和28年生まれ。慶應義塾大学卒。神田寺幼稚園（東京都千代田区）理事長、真理学園幼稚園（東京都八王子市）園長。浄土宗保育協会理事長であり、東京都私立幼稚園連合会会長も務める。平成25年に改訂された『浄土宗保育指針』の改訂委員メンバーでもある。

# 全国 研修会 特集

〈第43回〉

## 浄土宗保育協会全国研修会

併修 北海道地区研修会

浄土宗保育協会北海道地区 小山 英明

平成29年7月30日(日)より31日(月)までの2日間の日程で、北海道札幌市のホテルライフオーソ札幌に全国各地より93名の参加者をお迎えして、第43回浄土宗保育協会全国研修会が「咲かそういのち」のテーマのもとに開催致しました。

開会式では理事長の友松浩志先生に御導師のもとに参加者全員で「ささぐみあかし」を歌い、献灯・献花・献香を行いました。宗歌「つきかげ」を斉唱致しました。理事長の挨拶の後、永年勤続者を表彰し、開会式を終りました。

を頂きました。「仏教とはなにか」ブツダの生涯・ブツダの死生感・出家とはなにか・現代社会と仏教・ブツダの言葉」それぞれたいへん解り易く、お話しして頂きました。講義Ⅱでは、公益社団法人 全国少年教化協議会研究委員・吉水知草氏、並びに国立音楽大学大学院リート科伴奏助手・森田真帆氏による「浄土三部経の世界」絵本の読み聞かせと音楽の調べ」と題しまして森田氏のピアノ伴奏に合わせて吉水氏に絵本の読み聞かせを行って頂きました。たいへん優雅でゆったりとした時間を過ごすことができました。

トにお招きし、馬頭琴の演奏と喉歌を披露して頂きました。私自身初めて「喉歌」をお聞きしましたが、たいへん幻想的な雰囲気、会場がまさにゴビ砂漠の遊牧民が生活している情景が目に見え、くるような気さえ致しました。

2日目は参加者みんなで朝の参りをした後、チーム一番星の皆様方に朗読劇を披露して頂きました。皆様は、北海道内の浄土真宗本願寺派の僧侶と寺院婦人のみなさんが有志で結成されており、朗読に照明と映像を織り交ぜて「いのち」をテーマにした作品「いのちのいろえんびつ」を披露して頂きました。小児がんで早くしていのちを終えられた実在のお子さんに

のお話で、私も涙があふれて止めることが出来ませんでした。閉会式では受講者の代表の方に理事長より修了証が渡され、散会となりました。

この2日間の研修に遠方より参加して頂きました皆様方に心よりお礼を申し上げ、また、当研修会に関わって頂きましたすべての皆様方に感謝申し上げます。

### 野崎知世

● 北海道・しろいし幼稚園

この度は浄土宗保育協会全国研修会に参加させていただき、たくさんのお話を学ばせていただきました。

なかでも2日目の講演川チーム一番星さんによる「いのちのいろえんびつ」は、いのちについて改めて考えられる機会となりました。生きていることがどれだけ大切で当たり前ではないことかを、お話を聞きながら改めて感じました。普段いっしょに過ごしていた人が亡くなるということに自分自身だったらどのように向き合い関わっていくのか。またそれを子どもたちにどのように伝え過ぎていくの考える良い時間になったと感じます。

これからは、自分や周りの人たちが元気に過ごしていることに感謝し、過ごしていきたいと思います。また、「ありがとう」と自分の気持ちを言葉にすることは、とても大切なことだと改めて気づきましたので、今後心がけていきたいと感じました。

今回の研修で学んだこと、感じたことを今後の保育に繋げていきたいと思います。

あることで人は死という苦しみから逃れられなくなるのだと感じました。

死んでいくことすら当たり前のことだということを理解しながらも、やはり今この瞬間が続くものとして今も過ごしている私たちは、ある意味幸せで、ある意味で不幸なのだと思いました。しかし、死という苦しみを忘れることが幸せな人生に繋がっているとも思っています。どう生きることが幸せなのかを改めて考えることが出来た研修となりました。

### 参加者の感想

#### 松岡ありさ

● 北海道・しろいし幼稚園

この度、浄土宗保育協会全国研修会大会に参加させて頂き、たくさんのお話を学ぶことができました。特に、チーム一番星さんによる朗読劇「いのちのいろえんびつ」は心に響くものが多く、何気なく過ごしている時間がどれほど貴重なものなのかということに改めて感じることができました。

人間の命は約80年と言われていますが、病や突然の事故で失われてしまうことはもちろんあり、「いのちの終わりに順番はない」という言葉が重く響きました。何気なく会い、たわいものない会話をしながら過ごしている家族や友人との時間を「当たり前」だと思っていますが、大切な家族や仲の良い友人にいつか会えなくなるかわからないことこそが当たり前であり、いつ、いのちが終わるかわからないからこそ、何気ない生活・時間に感謝をしようと思えます。

2日間、貴重なお話を聞かせて頂き、ありがとうございました。

#### 岩田美鈴

● 北海道・しろいし幼稚園

今回の佐々木先生、チーム一番星さんの研修を受け、仏教の死生観を知って「翼をください」を聞くことで、より深く死に向かう苦しみかどのように生まれるのかということを知ることが出来ました。人は老いるときに自分の体の変化に戸惑い、今の自分から変わりたいと感じます。また、死に逝くときには自分という存在がなくなることへの恐怖を覚えます。

「翼をください」の歌詞の中では自分を自由にしてくれる翼が欲しいと願っていますが、自由が欲しいと願う煩惱が





# 平成29年度 表彰対象者

## 園創立記念対象者

創立50周年記念 岐阜教区 こじか幼稚園  
創立60周年記念 岐阜教区 むつみ保育園  
創立65周年記念 兵庫教区 松風幼稚園

## 国家表彰対象者

文部科学大臣表彰  
山梨教区 小笠原幼稚園 鶴見弘道先生

## 永年勤続表彰対象者

**40年** 【茨城教区】円明寺／文間保育園：大竹幸子 【熊本教区】観音院／観音保育園：福本康博

**30年** 【茨城教区】円明寺／東文間保育園：山中利子、松永洋子 円明寺／文間保育園：豊嶋清美  
【尾張教区】雲谷寺／中部保育園：成田美重子 【岐阜教区】本誓寺／こじか幼稚園：山野香  
【京都教区】檀王法林寺／だん王保育園：小谷知子 【熊本教区】観音院／観音保育園：福本輝子【三州教区】法隆寺／国分保育園：安楽明美 法隆寺／ひかりこども園：川畑三枝

**20年** 【青森教区】青岩寺／明照保育園：工藤照美 【茨城教区】円明寺／東文間保育園：大竹正人、  
高中良江、上地美奈子、三輪照子 円明寺／文間保育園：鈴木笑美 【埼玉教区】西願寺／  
認定こども園 あずま幼稚園：三木文子 【岐阜教区】本誓寺／こじか幼稚園：国光美香 本誓寺／  
明照幼稚園：巢之内亜記子 安養寺／なかぞね保育園：居原和那 安養寺／むつみ保育園：多賀恭  
子、戸田真由美 【滋賀教区】常楽寺／大將軍ひかり保育園：須田かおり【兵庫教区】法安寺／マーヤ  
保育園：大倉智恵 【三州教区】法隆寺／国分保育園：田島純子

**10年** 【茨城教区】円明寺／東文間保育園：武田奈津子 円明寺／文間保育園：大竹聡子、川田陽子、  
川上美代子、川上計美、野中香奈、浜田恵美子、杉山典子 【東京教区】祐天寺／祐天寺附属  
幼稚園：池谷育 【岐阜教区】本誓寺／こじか幼稚園：四ツ橋利数、江原剛 本誓寺／明照幼稚園：未  
次妃鶴、横山利彦、大島茂樹 【滋賀教区】教善寺／ののみち保育園：橋本篤典、川田恭嗣、遠山二希羽、  
中平美貴 常楽寺／大將軍ひかり保育園：速水静香 【京都教区】西念寺／山科幼稚園：船田奈津子  
竹林寺／月かげ保育園：山川紗貴、柿本有香、村上不二子 竹林寺／月かげみどり保育園：中村有  
希 京都文教短期大学附属家政城陽幼稚園：田家奈苗 【兵庫教区】法性寺／道場保育園：芦原いづ  
み 【三州教区】法隆寺／国分保育園：川畑喜光、帖地陽子、東ミホ 法隆寺／国分幼稚園：片平すみ  
れ、高橋しのぶ、丸山晃子、田島さやか 法隆寺／浄光保育園：下原さなえ 法隆寺／新光こども園：  
川畑隆光 法隆寺／ひかりこども園：川畑美紀、竹下真美、中島さとみ、山下香苗 法隆寺／まいづ  
るこども園：宮下里佳

# 法然さまお誕生・花まつり協賛広告

三宝幼稚園  
稲村博道

宗教法人法龍寺  
月映保育園 園長  
木本龍道

耕逸山児童福祉協会  
多度保育園 理事長  
水谷知恭

藤田保育園 園長  
後根泰定

山科幼稚園 西念寺保育園  
理事長  
浄土宗保育協会参与  
白旗文雄

神田寺幼稚園 理事長  
友松浩志

学校法人法隆寺学園  
国分幼稚園 園長  
川畑憲光

社会福祉法人共生保育園  
理事長  
古屋吉雄

学校法人美乃里学園  
自然幼稚園 理事長  
北村隆信

月かげみどり保育園  
園長  
浦田裕人

月かげ保育園 園長  
小寺直見

社会福祉法人いまいずみ  
理事長  
樋口威道

鶴の木いまいずみ保育園 園長  
樋口明道

学校法人西願寺学園  
認定こども園 あずま幼稚園園長  
浄土保育協会副理事長  
丹羽義昭

パドマ幼稚園 園長  
金子英滋

明德幼稚園

学校法人 八正学園  
めばえ幼稚園

若穂幼稚園 園長  
和田典雄

明照保育園 園長  
川又寿子

学校法人 八正学園  
西部めばえ幼稚園 理事長  
佐藤忠彦

松本光明学園 理事長  
林昌寺  
川上隆弘

花川戸保育園 理事長  
荻野順雄

むらさき幼稚園  
理事長・園長  
家田光信

建中寺幼稚園  
理事長・園長  
村上真瑞

明願寺幼稚園 理事長  
花田郁実

## 参加者の感想

### 二上真奈

● 京都府・月かげみどり保育園

この度は、帰敬式に参加させていただき、ふだん味わうことのできない、とても貴重な経験をさせていただきありがとうございました。法話はとても分かりやすく、聞けば聞くほど、深みのある話ばかりでした。南無阿弥陀仏を口に唱えることで、必ず仏の救済を受けて平和な毎日を送り、お浄土で生まれることができるということを教わり、私達自身のための南無阿弥陀仏なのだと感じることができました。また、生きがいは、この自分を必要としている人がいるということだと、教えていただき、自分を必要としてくれている人の大切さや、生きがいを持って今を生きることができている幸せを感じることができました。一人ひとりが大切であり、必要なのだということ子どもに伝え、帰敬式で学んだことを日々の保育や生き方につなげていきたいと思いました。

### 保田正子

● 京都府・西念寺保育園

毎週保育園で仏参をする時に子ども達と一緒に同称十念をします。この2日間で始まる時、終る時と何度も唱え、法話を受けて、夕方のお勤め、朝のお勤めをしたりしました。4回に連なる法話は、自分の心を清めたり振り返ったりする大切な時間でした。

「年上の人を敬い、年下の人を慈しむ」という言葉が心に残り、これからの生活をその言葉を忘れずに過ごしていきたいと思いました。

また、私は大病を4年前に患ったので、「病には病の値打ち、身を横たえて空の高さを知る」を心に感じ、その時にはそのような気持ちになれませんでした。今となってそのように思えたらよかったです。

土谷康文さんの詩を聞いて胸が詰まる思いがしました。

最後に手を合わせるといい顔になるという言葉が胸に常にいい顔でいたい。とても寒さの厳しい2日間でしたが、知らない方と同じお話を聞き、知恩寺でよい体験をさせてもらい参加して良かったです。皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

### 棚瀬美千代

● 岐阜県・慈教保育園

法話3時間目、有本上人が笑顔で参加者を見回されました。「手を合わせると良い顔になります」と。何度も手を合わせ、念仏を唱えた帰敬式の2日間は良い笑顔になりたいと思う時間でした。

この頃の私は、自身の生活や保育を振り返ると反省ばかりで、これは自分の勝手な思いからくるものと感じていました。この時に帰敬式へ参加することができ、自身を見つめる良い機会をいただきました。

六道輪廻の中の間人、人間として生きる苦しみ、すべての苦しみは自分が作って自分が盛っていく、そして念仏を唱えるという事。法話を受けていくうちに、自分の生き方が変わっていきそうに思いました。

「手を合わせると良い顔になる」。明るく、正しく、仲良の教えを大切に、周りの人に感謝し、子どもたちを慈しみ、笑顔でこれからの人生を精一杯歩んでいこうと思っています。



## 第24回 帰敬式

担当/近畿地区・大阪教区

浄土宗保育協会加盟施設  
教職員のための帰敬式  
(社会福祉協会共催)

日時 平成30年1月27日(土)～28日(日)

会場 大本山百万遍知恩寺

戒師 福原隆善台下

勧誡師 有本亮啓師

参加者 31名



## 参加者の感想

### 関東地区研修会

保科汐里

● 東京都・真理学園幼稚園

2日間という短い時間でしたが、とても中身が濃い研修でさまざまなことを学び、吸収することができました。パネルシアターをはじめ、子どもとの関わり方までとても興味深い内容ばかりだったと思います。自分自身が今まで理解できなかったことが分かるようになり、とても良い勉強になりました。まだ就業して1年目ということもあり、自分の知識が少ないと感じていました。しかし、今回の研修を終えて少し自信ができましたし、これからの役に立つと思えました。

研修では講義の他に初対面の人とスキンシップや話をする中で緊張もほぐれ、自分の意見だけでなく、皆さんの意見を聞きながら考えることもあったので色々な気づきがありました。そして、深い学びもありました。講師の先生方も面白く、講義内容も楽しく充実していました。この機会に学んだことを現場へ持ち帰り、これからも仕事を精一杯頑張っていきたいと思えます。爽りのある2日間をありがとうございました。

### 九州地区研修会

江藤恵里

● 大分県・こども園るんびにい

今回3つの公演を受け、子どもの最善の利益のためにどのようなことをしなければいけないのかを再度考えさせられたように思います。まず仏教保育についてですが、法然上人の考えと私たちが目指す10の姿との共通点の多さにびっくりしました。子どもたち一人ひとりを受け入れ、その子の本来持つ色を伸ばし見えない心を大切にしていくことがこれからも大事だと再認識しました。

次に、遊びがいかに子どもの成長には大切なのかということ、またそれを整えてあげる大切さを学びました。最後に環境の大切さ、ただそこにあるだけの環境にしてしまわないように私たちがどのような働きかけをしていけばいいのか子どもたちに興味関心を持ってもらうために環境構成を考えていかなくてはならないと思えました。2日間の公演を通して、子ども達のために私たちができることを改めて考え直していきたいと思います。

### 関東地区研修会

甲野貴子

● 茨城県・取手保育園

群馬県伊香保にて開催された研修会に参加させていただきました。高橋先生のパネルシアターでは大人の私達でも引き込まれてしまうほどの話術、導入の仕方、話や歌のテンポなど参考になりました。またあのパネルが数十年前に作られ、色あせずに生き生きと使われていることに驚きました。富田先生の講演では、会場全体を歩き来し、仏教の言葉も交えながら私達一人ひとりの顔をきちんと見て話をしてくださり、保育士のことをねぎらっていただきました。今井先生の講演では身体の発達から心の発達、がまんする力の育て方についてお話をいただきました。

私達保育士は様々なタイプの保護者、子どもと向き合い、共に歩んで行くために寄り添い、信頼関係を築くこと、わがままとがまんの違いや安心して適切に自分の思いを出せる、心の「還る家」となれるように園内でも連携して保育にあたるのが大切だと改めて感じました。今回の研修を胸に技術を更に高め、保育に努めていきたいと思えます。

### 中四国地区研修会

長井史絵

● 愛媛県・若葉保育園

年少の頃からの太鼓の練習の積み重ねが力強い演奏となると感じました。また指導の様子を見て、子どもと保育士がしっかりと意思疎通を取りながら練習をすることで、一人ひとりが自信を持って演奏することができているのではないかと感じました。

課題「保育と仏教」で園児にとって保育士は鏡であるとの話が、まさに太鼓の練習に対する真剣な姿へとつながっていたのだと思えました。

観察する力が高い子どもにとって、目の前にいる保育士の態度と表情と言葉がすべてであることを忘れず、日々の保育、子ども達に向き合うように心がけたいと改めて思いました。また、第三者の立場から見守る保育士として、「保育力=人間力を養う心」ということも忘れずに保育していきたいです。

## 平成29年度事業報告 地区研修

### 〔全国研修会〕

併修 北海道地区研修会

日時 平成29年7月30日(日)～31日(月)

会場 ホテルライフオート札幌

講師 ◎「幸せな人生とはなにか」

花園大学文学部教授 佐々木閑先生

◎「浄土三部経の世界／絵本の読み聞かせと音楽の調べ」

ソプラノ 吉水知草先生

ピアノ 森田真帆先生

◎「朗読劇」『いのちのいろえんぴつ』

チーム一番星

参加者 93名

### 〔地区研修会〕

#### 〔北海道地区研修会〕

全国研修会にて併修

第316回(東北地区研修会)担当/宮城教区

日時 平成30年3月9日(金)～10日(土)

会場 ホテルグランテラス仙台

宮城教区第五組大忍寺

講師 ◎「ゴトモ☆イノチく子供を共に育てよう」

音楽家・作家/元埼玉教育委員長 松居和先生

参加者 40名

第312回(関東地区研修会)担当/群馬教区

日時 平成29年6月10日(土)～11日(日)

会場 ホテル天坊

講師 ◎「子どもと楽しむパネルシアター」

佛教大学教授 高橋司先生

◎「カウンセリング・マインドについて」

子ども家庭教育フォーラム代表 富田富士也先生

◎「子どもと共に育つ保育」

チャイルドハウスゆうゆう施設長・群馬県教育センター講師 今井寿美枝先生

参加者 69名

第313回(東海地区研修会)担当/岐阜教区

日時 平成29年8月26日(土)～27日(日)

会場 岐阜キャッスルイン

講師 ◎「良い声で良い保育」

フリーアナウンサー 浅井彰子先生

◎「紙工作教室」

心の森ミュージアム館長 水野政雄先生

◎「こぼの力と目の力」

教育委員会スクールカウンセラー 橋本謙先生

参加者 54名

第314回(近畿地区研修会)担当/京都教区

日時 平成29年11月18日(土)

会場 ウェスティン都ホテル京都

講師 ◎「園児に法然さまのお話をする」

知恩院浄土宗学研究所嘱託研究員

安達俊英師

◎「3びきのくまさん」「鬼のおくりもの」

人形劇団クララルテ

参加者 89名

第315回(中四国地区研修会)担当/山口教区

日時 平成30年2月3日(土)

会場 山口教区周東第二組瑞相寺

講師 ◎「和太鼓の指導・実技研修」

源空寺保育園園長 珠山信孝師

◎「私の歩んできた音楽布教の道」

西迎院副住職 中村祐華師

◎「保育と仏教―浄土宗保育を実践しよう」

西蓮寺住職/浄土宗総合研究所所長 藤本浄彦師

参加者 84名

第311回(九州地区研修会)担当/大分教区

日時 平成29年6月24日(土)～25日(日)

会場 城島高原ホテル

講師 ◎「仏教保育について」

東京教区/明福寺住職 福井徹人師

◎「遊びは最高の学び」

城島おもちゃ王国 市原比呂子先生・宮邊麻衣先生

◎「今、子どもが危ない!？」

佛教大学教授 高橋司先生

参加者 132名

## 職員交流 公開保育

幼保を超えて  
他園に学ぶ



### 九州職員交流 福岡県・水巻みなみ保育園 泉田しのぶ

2月7日に藤田保育園へ交流保育に行かせていただきました。仏教保育の面については、自園と同じような感じで、お集まりの参加、お参りなどがありました。私は今年度1歳児の担任をしているので、この日は同じ1歳児クラスに入らせていただき、一日体験をしました。1歳児クラスの生活面での取り組みはほとんど同じような感じですが、主活動の時間をしつ

かり持つということ、3歳以上児のようなお集まりはなく、ゆつくりと1時間強、充実した活動時間が取れていると感じました。保育士の人数も確保されており、充実した1日を送れているように感じ、また、子ども達も人数が多いにも関わらず、落ち着いて過ごしており、担任の先生方も一人ひとりとゆつたりと関わりが持てる状況が見られました。日頃時間には追われ、慌ただしく過ごしていることを反省し、少し生活面において改善が必要なのではないかと思いました。

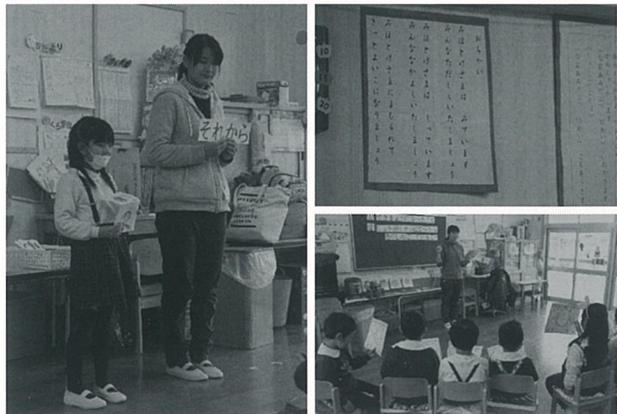
園それぞれの特徴、取り組みの違いはあるものの、他園を知り、子ども達や先生方との交流という良い機会、体験をさせていただきました。

### 関東地区公開保育 埼玉県・淑徳与野幼稚園 平山友里絵

浄土宗保育協会の「関東地区公開保育」に参加し、草加市にある幼

保連携型認定こども園あずま幼稚園を見学させていただきました。他の園の保育を見学することは滅多にないことなので、とてもいい機会になりました。全体朝礼の様子、各クラスの活動など自由に見学させていただき、勉強になりました。風邪予防にうちから持参したお茶でうがいをする姿にも関心いたしました。公開当日の保育カリキュラム「ことば遊び」では、年齢

に応じたことば遊びを楽しむ姿を見せてもらい、子どもたちにもどのように伝えていったらいいか参考になりました。講師の齋藤先生のお話からは、子どもたちがたくさんの「ことば」に触れ、その「ことば」で楽しめる環境作りの工夫と保育者の関わり



### 平成29年度 教職員交流研修

#### 職員相互派遣型

- 【関東】
- 派遣教員 ◎ 東京支部／月映保育園 小堀真弥、石井里美
  - 受入園 ◎ 東京支部／祐天寺附属幼稚園
  - 派遣教員 ◎ 東京支部／祐天寺附属幼稚園 安藤輝美
  - 受入園 ◎ 東京支部／月映保育園
- 【九州】
- 派遣教員 ◎ 福岡支部／藤田保育園 福永かおる、後根寧子
  - 受入園 ◎ 福岡支部／水巻みなみ保育所
  - 派遣教員 ◎ 福岡支部／水巻みなみ保育所 泉田しのぶ、安部榎希子
  - 受入園 ◎ 福岡支部／藤田保育園

#### 公開保育型

- 【関東地区】
- 日時 平成30年1月22日(月)
  - 会場 埼玉教区／認定こども園あずま幼稚園
  - 参加者 13名



### 事業の 問い合わせ

同じ浄土宗保育に取り組むもの同士、お互いに学び合うことで保育のヒントや気づきを得られるのが、この教職員交流研修です。今年度も積極的な研修が行われるよう、皆様のご参加をお待ちしています。

申し込み先

浄土宗保育協会  
(浄土宗 社会国際局内)

TEL 03-3436-3351

FAX 03-3434-0744

今年度の機関紙発行には、これまで数年間、お願いしていた編集会社が突然閉社したため、途方にくれました。幸い新しい編集者が見つかり、皆様に浄土宗保育を届けられホッとしております。

浄土宗では現在、「浄土宗公益教化事業奨励助成金制度」があり、宗教法人立の教育保育施設には、公益化に向けて助成金が出るようになっていきます。教区に申請し、審査を通ることが要件です。東京教区の宗教法人立の認可保育所が該当し、今、審査申請に向けて動いております。今後は紙面にて、補助金や助成金の情報をお知らせしてまいります。

さて、今年2月19日、長野県の公立保育園に通う4歳の男の子が、倒れた墓石の下敷きになり、意識不明の状態で見送られるという痛ましい事故がありました。地元の新聞やテレビ局などの報道によれば、その日、園児たちは近くの広場に園外保育に出かけ、遊ん

でいる間に、男の子が隣接の墓地でおむけに倒れ、右足から胸にかけて墓石の下敷きになっていた状態で発見され、119番通報して病院に救急搬送されたとのことでした。

男の子が下敷きになった墓石は相当古いものらしく、固定もされていなかったようです。必死の治療にも関わらず、男の子は23日に亡くなりました。とても悲しく残念なニュースです。

幼稚園・保育園・こども園では、子どもの命を守ることが大前提です。このような事故のニュースを受けて、私たちは墓地の安全についても考えなければなりません。特に、無縁となった古い墓地の管理はとても難しい問題ですが、各々の園がチェックをし、墓地の安全に留意していただけたらと存じます。

企画委員長 福井徹人



発行 浄土宗保育協会  
〒105-0011  
東京都港区芝公園4-7-4 明照会館  
浄土宗 社会国際局内  
TEL 03-3436-3351  
FAX 03-3434-0744  
ホームページ: <https://jodohoiku.com/>  
メールアドレス: [info@jodohoiku.com](mailto:info@jodohoiku.com)  
発行人 友松浩志  
発行日 2018年5月吉日  
制作 浄土宗保育協会企画委員  
編集 猪熊弘子/米原晶子  
デザイン 福田万美子  
印刷 市川印刷

すずき出版

<http://www.suzuki-syuppan.co.jp/>

「こどものくに」は日本で唯一の仏教園向けの月刊おはなし絵本シリーズです。思いやりの心を育てることを念頭に置き、丁寧な絵本作りを心がけています。年齢に合わせて、三誌を展開。さらに、乳児向けの「はじめてのちいさなえほん」をくわえたラインナップ。ぜひ、貴園での採用をご検討ください。

ひまわり版

まってるまってるリボンまってる

いいおと いっぱい

とんだとんだ

毎月1冊、お届けします!

こどものくに

ひまわり版

27×22cm並製 28頁  
定価352円+税

4～5歳児向け

チューリップ版

21×28cm並製 24頁  
定価352円+税

3～4歳児向け

たんぽぽ版

23×22cm並製 24頁  
定価343円+税

2～3歳児向け

はじめてのちいさなえほん

16×15cmポードブック 24頁  
定価361円+税

1～2歳児向け

鈴木出版株式会社 〒113-0021 東京都文京区本駒込6-4-21 TEL03-3945-6612 FAX03-3945-6616



児童書

園舎設計



保育士支援



私たちは  
子どもたちの健やかな育ちを支える  
知と感性にあふれた豊かな価値を創造し  
社会に貢献します。



保育用品

保育書



遊具



株式会社フレーベル館  
保育用品/キンダーブック/児童図書  
〒113-8611 東京都文京区本駒込6-14-9  
TEL 03-5395-6600 FAX 03-5395-6621

フレーベル館



# 全国研修会

〈テーマ〉

## 『明るく照らそう 子供たちの未来』

本年度の全国研修会は東北地区研修会の併修で行います。保育の世界はさまざまな問題を抱えています。

私たち浄土宗保育は、「子どもたちにとって大切なものは何か」を見失わずに、

子どもたちのいのちを育てていくことを大切に考えていきたいと思います。

実りある研修大会となりますよう、会員の皆さまのご参加をお待ちしております。

〈日時〉

平成30年8月18日(土・友引)~19日(日)

〈研修会場〉

九品寺檀信徒会館

〈宿泊先〉

古滝屋(いわき湯本温泉)

〈スケジュール〉

8月18日(土)	13:00	開校式
	13:30-15:30	講義① 工作ワークショップ(丸林佐和子先生)
	15:45-17:15	講義② 人口減少社会での園づくり・地域づくり(野澤貴春先生)
	17:30-18:00	浄土宗保育協会 総会
	18:30-20:30	懇親会 正月荘
	20:30	宿泊先移動

8月19日(日)	9:00	朝のお勤め 古滝屋
	10:00-13:00	講義③ 被災地スタディーツアー
	13:30	閉校式
	14:00	解散

〈研修費〉

参加費：4,000円 懇親会費：8000円

〈アクセス〉

電車

①JR常磐線 いわき駅 徒歩5分 ②JR常磐線 常磐駅 車で5分東京-いわき間 特急で約2時間~2時間半 品川・東京・上野発着車  
①常磐道 いわき中央IC約10分 ②常磐道 いわき湯本IC約10分 東京-いわき間 約2時間

飛行機

①②福島空港より車で約40-50分 伊丹-福島 新千歳-福島のみ 仙台空港より車で約2時間成田空港より車で約2時間半

主催：浄土宗保育協会 共催：浄土宗第二地区東北地方教化センター後援：浄土宗福島教区  
浄土宗福島教区教化団 担当：浄土宗保育協会 東北支部